神奈川県立歴史博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

論題	ペリー来航絵巻について（二）
著者	嶋村元宏
掲載誌	神奈川県立博物館研究報告―人文科学―　第 32 号
ISSN	0910-9730
刊行年月	2006 年（平成 18 年）3 月
判型	JIS-B5（182mm × 257mm）

【資料紹介】

ペリー来航絵巻について（二）

嶋村元宏

【キーワード】 史料学・黒船・絵図

【要旨】

前々号に引き続き、当館が所蔵するペリー来航絵巻を紹介した。

本資料も「黒船絵巻」、「黒船来航絵巻」などの題は付されていない。題箋には、「亜墨利加船渡来横浜之真図」とある。

嘉永七年のペリー第二回来航時の様子から始まり、将軍・幕府高官への献上品など、詳細な図が含まれている。また、主要軍艦の図も見られる。

本資料の制作については、安政二年秋渡辺政高が絵を描いたことが資料中の記述から判明する。さらに、渡辺自身はペリー来航時の実景を写し取ったのではなく、当時津山藩の絵師によって描かれた図を手本として描きなおしたことも明らかになった。ただし、巻子仕立にしたのは、渡辺とは別の人物であると推測される。

【概要】

前々号に引き続き、当館が所蔵するペリー来航絵巻のうち、他館への貸出や出版物への写真貸出など、利用頻度が高い一巻を紹介する。

本資料は、題簽に「亜墨利加船渡来横浜之真図」とあり、当館ではこれを資料名としている。「黒船絵巻」、「黒船来航絵巻」といった、「黒船」という表現はいずれにも見られない。

以下、この絵巻に含まれる画面の順に従い説明を行うことにする。なお、(1) から (25) までの番号は、便宜上付したものである。

(1) 嘉永七年正月十七日、当初浦賀に姿を現した七艘のアメリカ軍艦を小柴村（現、横浜市金沢区）にあった山の上から俯瞰して描く。ペリー艦隊の第二回来航については、前年予告されていたこともあり、幕府側もその来航に備えていた。十一日に伊豆沖に異国船発見の報が漁船からもたらされると、既定のとおり番船が出され、江戸湾岸周辺も防備体制がとられている。一時、異国船の姿を見失っていたが、十四日になると松輪崎、城ヶ島—大島間、小田原沖で、各一艘ずつの異国船が再び確認され、最終的に十六日までに浦賀沖に三艘の蒸気船を含む七艘のアメリカ軍艦が揃い、その状況を描いたものである。

(2) 正月十六日に揃った第一陣に加え、二月六日および二一日に来航した二艘のアメリカ軍艦を加えた九艘の様子を描く。各艦に関して来航日及び退帆日、搭載大砲数、乗組員人数、船

種、船主が説明書きとしてふされている。これらのデータは、錯綜していた情報を整理した後、記されたものと思われる。

(3) 条約締結交渉が行われた横浜応接所を描く。図中「甲寅三月／藍梁関研写／於金川寓居」とあり、交渉が妥結を迎えた嘉永七年三月に、「藍梁関」なる者が、一時身を寄せていた金川つまり神奈川の滞在先においてこの絵を描いたことを示している。早稲田大学が所蔵するペリー来航時の状況を描いた『金海奇観』は、仙台藩主の命により儒者の大槻磐渓が編纂した絵巻であるが、その中にも本図と同様の図があり、なおかつ、磐渓の友人として「関藍梁」の名が見える。おそらく、本図は関が描いたものを写したと考えられる。また、バッテラから祝砲が放たれ、その周辺を濛々と煙が立ち込める様子を描いた特徴的な図であるが、本図と同様な絵は、津山藩のお抱え絵師石橋李朝筆『異国船来航絵巻』(津山洋学資料館所蔵)に含まれる。つまり、この関が描いた図は津山藩の絵師によって描かれた図が、もとになっていると考えられる。

(4) ペリーを先頭とするアメリカ使節団が、横浜に上陸し条約締結交渉のために応接所へ進行する様子と、その応接所の見取り図を描く。上陸の場面では幕府側の警備状況もあわせて描かれている。また、応接所の見取り図中には、各部屋に配置されていた幕府側の応接役の名などが見える。

(5) バッテラ(小型のボート)を前後・側面から描く。

(6) アメリカ使節の内、幹部級の肖像画である。上段右から、アボット、オランダ語通訳官ポートマン、マセドニア号艦長アボット、下段右からペリーの子息、中国語通訳官ウィリアムス、蒸気軍艦サスケハナ号艦長ブカナンが描かれている。

(7) 位階に応じた軍服に着目した図。右から、司令官テンスル、上官、楽隊兵、兵長を描く。

(8) ペリーと副将アダムスの肖像を描く。ペリーについては、年齢をあわせて記載してある。

(9) 以降、ペリーが持参した献上品が描かれている。(9)から(13)までは、当時の西洋における科学技術の高さを示すような蒸気機関車模型とエンボッシング・モールス電信機である。

(9) では、ペリーが将軍へ献上すべく持参した蒸気機関車模型のうち、客車部を

(10) では、同じく貨車部分を、

(11) では、蒸気機関車部分を描く。この蒸気機関車部分は、真正面からも描いており、正確に英字も写し取られている。

(12) 蒸気機関車模型同様、文明の利器を示すため将軍家へ献上すべく持参したモールス電信機を描く。実際に通信実験を行った際組み立てられており、本図はそのときの状況である。各部品の材質や配線などについては、文字による説明も付されている。

(13) 蒸気機関車模型も実際に走行実験が行われた。本図は、その

際敷設されたレールを描く。

(14) からは、西洋製の武器が描かれている。

(14) ペリーが幕府高官へ持参したピストルの全体及び分解図である。各部分の寸法も記載されている。以下、

(15) では、銃を、

(16) では、サーベルを、

(17) では、陸戦砲を、

(18) では、6連ピストルを描き、

(19) では、武器ではないが、ライターが見える。次の図も武器であることから考えると、このライターも軍事目的に利用する器具と認識して、この部分に含めたのではなかろうか。

(20) 船舶搭載用の大砲を描く。

(21) 蒸気軍艦ポーハタン号の図。これにペリーが乗船していることを記している。

(22) 輸送船サプライ号と戦艦マセドニア号を描く。

(23) ロシア蒸気船とアメリカ蒸気船サスケハナ号を描く。しかし、なぜロシアの蒸気船を描いたのかは不明である。そもそも、嘉永六年と七年の二度にわたるペリー来航前後に来航したプチャーチン使節の乗艦であったパルラダ号とディアナ号は、いずれも蒸気船ではない。

(24) 蒸気軍艦ミシシッピ号を描く。「安政二乙卯三秋／渡辺政高写之」とあることから、安政二年七月から九月にかけてこれまでの各図を描いたと考えられる。

(25) 「米利幹合衆国軍艦之図」として、最後に軍艦の背後を描く。

そして、奥書に「嘉永六巳年六月亜墨利加船相州本牧沖入津並横浜之実景写之」とあるが、これまで見てきた各図はいずれも、嘉永七年の第二回来航時の場面であり、事実と一致していない。

さらに、末尾に「安政二卯年江戸城南寓／森重大内都年武庫」とある。

場面ごとに内容を概観した結果、以下のことが判明した。

まず、内容的には、ペリー第二回来航の嘉永七年正月から三月までの状況を描いている。ペリー艦隊が浦賀沖に再来航し停泊した状況、上陸時の様子、ペリーが将軍をはじめ幕府高官へ送った献上品、西洋製の武器、軍艦などが描かれていた。

本資料は安政二年秋渡辺政高によって描かれたものであると思われるが、前半部分の原図は津山藩の絵師によるものである。つまり、渡辺はペリー来航時に現場で取材して描いたのではなく、後日すでに成立していた図をもとに描きなおし、本資料を制作したのである。

また、巻子自体も安政二年に制作されたものと考えられる。ただし、奥書から巻子仕立にしたのは渡辺とは異なる人物であると思われる。

なお、何ゆえ「ロシア蒸気船の図」が含まれているのか、奥書に間違った年記があるのかについては不明である。

【資料】

作者　渡辺政高（カ）
資料名　亜墨利加船渡来横浜之真図
員数　一巻
寸法　縦　二六・九cm
伝来など　昭和四二年、山梨県在住の個人より購入
資料番号　CW〇〇〇〇二三四

図版・釈文

【凡例】

一、カラー図版は、絵巻の全貌がわかるように連続させ、モノクロ図版は、原則として一ページに一場面を掲載するようにした。

一、上段にモノクロ図版を、下段には上段の図版に見える文字を、原則として位置関係が同じようになるように割り付けた。但し、(4)については、一部分のみとした。

一、(1)～(25)の番号は、便宜的に付けた場面番号である。

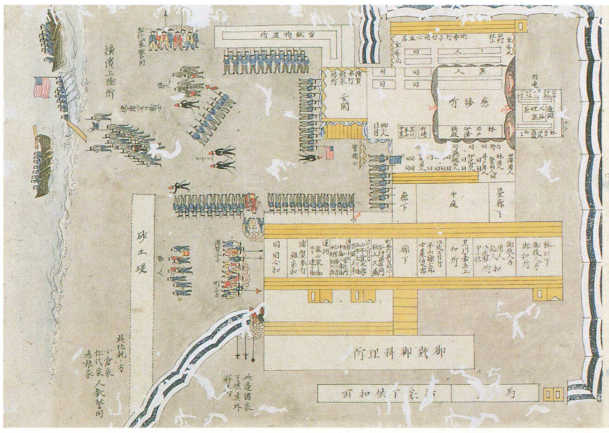
一、寸法は、縦が、二六・九cmで、各場面の幅は各図版に記した。

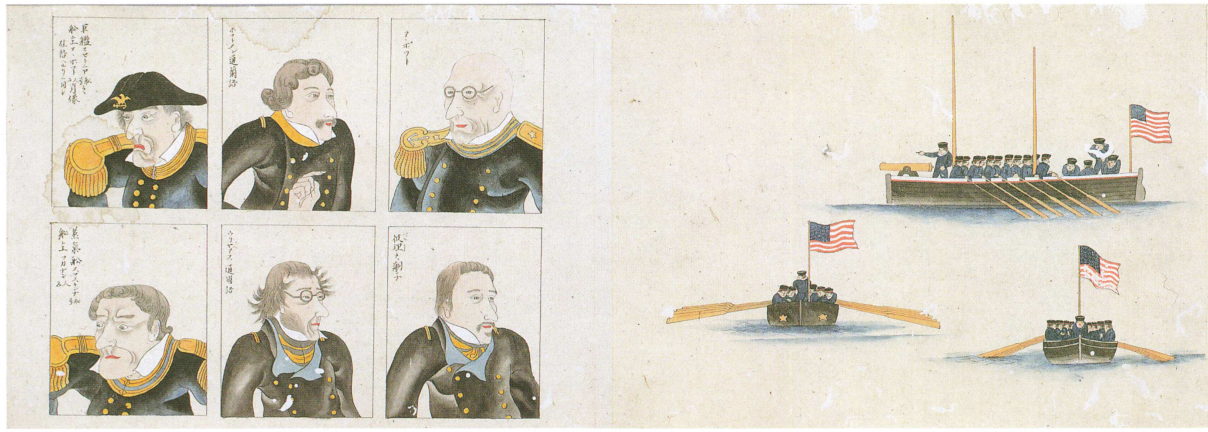
一、モノクロ図版の下にあるC12926—1～C12926—25は、当館で使用している写真番号である。当該写真の利用申請などのさい、活用されたい。ただし、掲載部分が二枚の写真でつながれている場合もある。

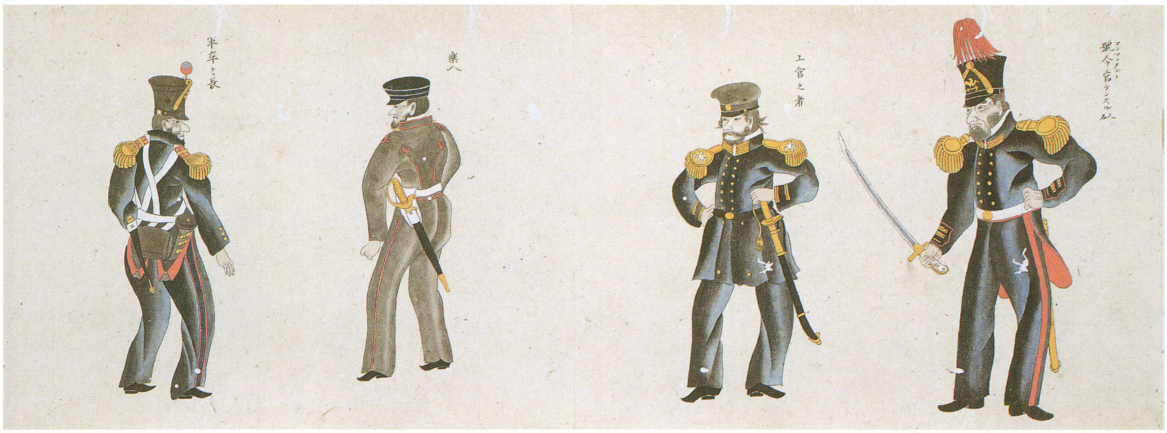
一、文字数と行数は、原資料と同じになるようにしたが、一部改行位置を　」で示したものもある。

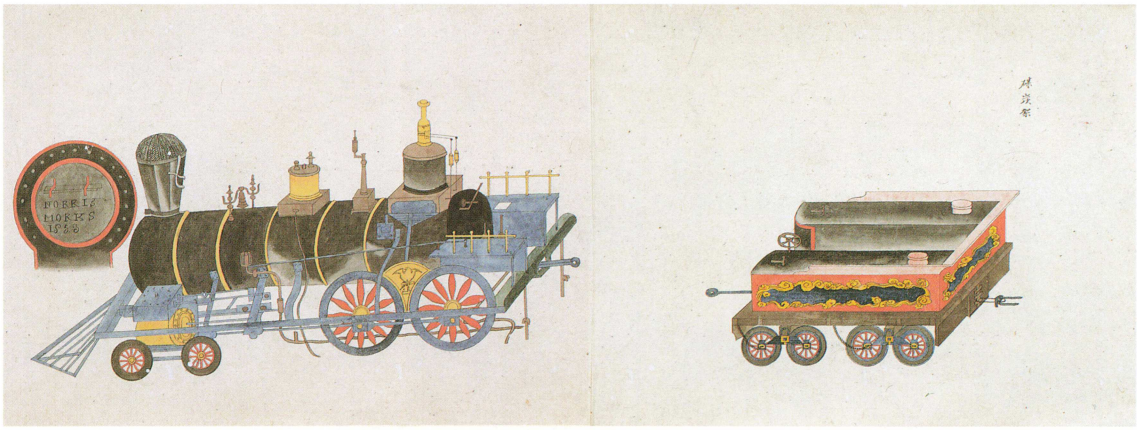
一、原則として「江」、「而」などの助字はそのままとした。

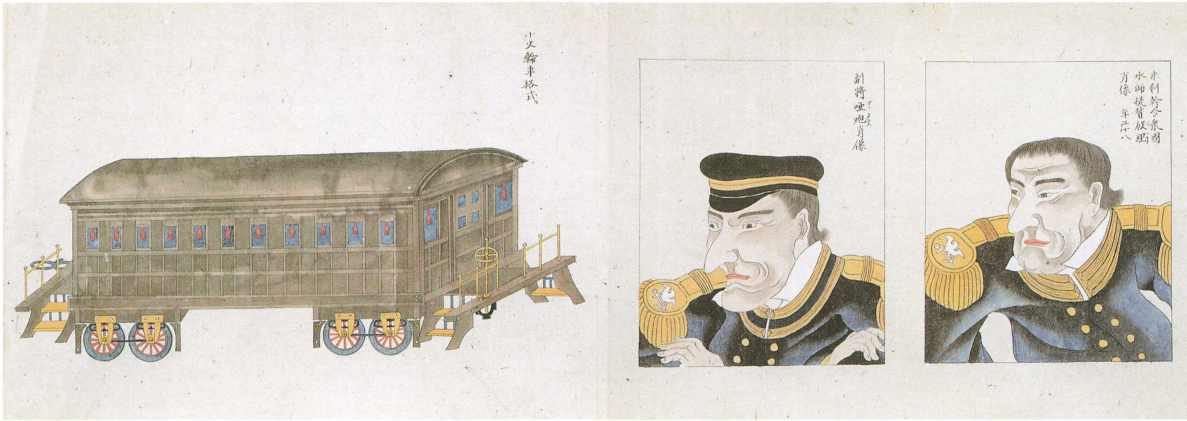
一、割注は［　］で示した。

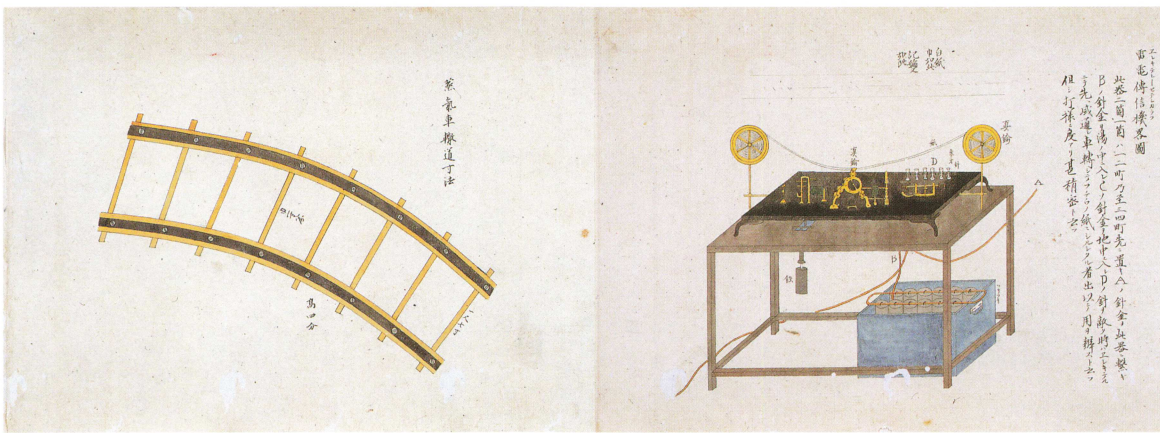


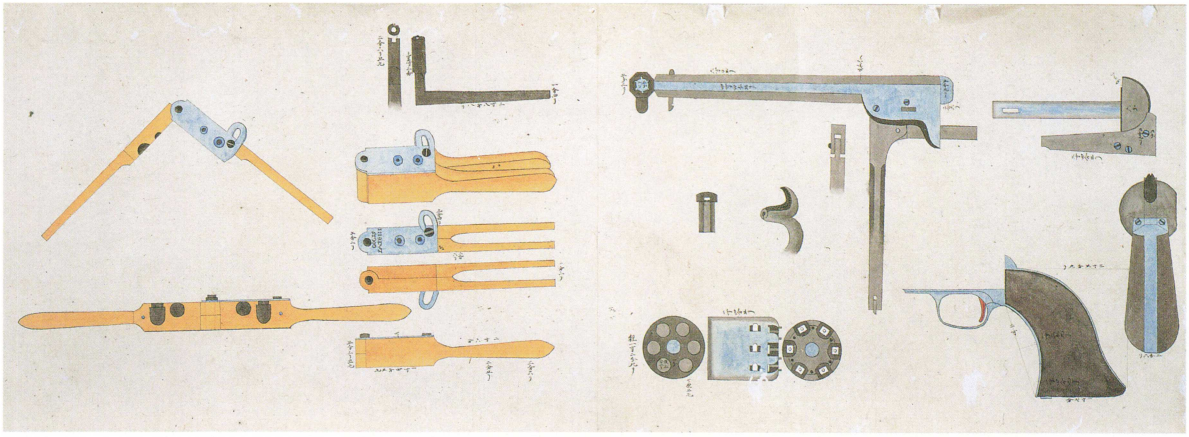


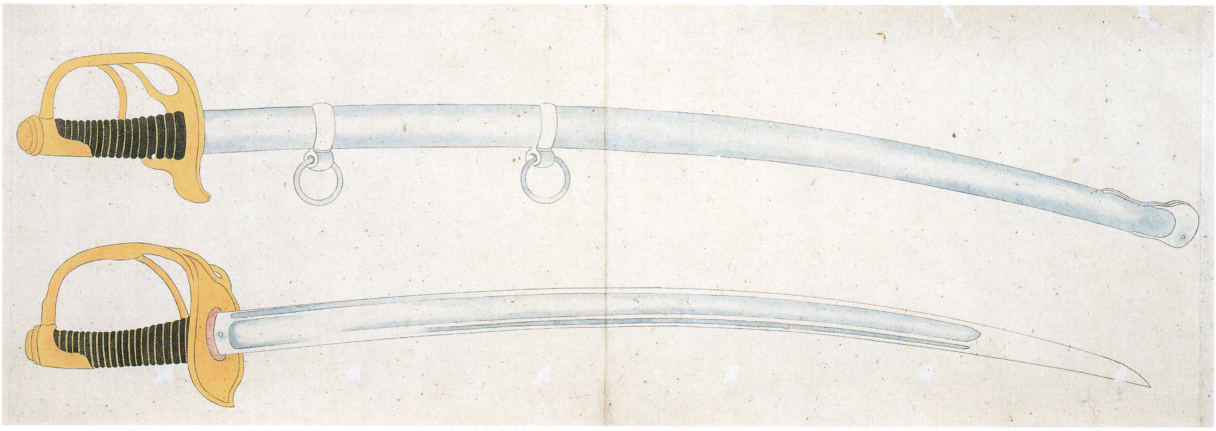

上官之者

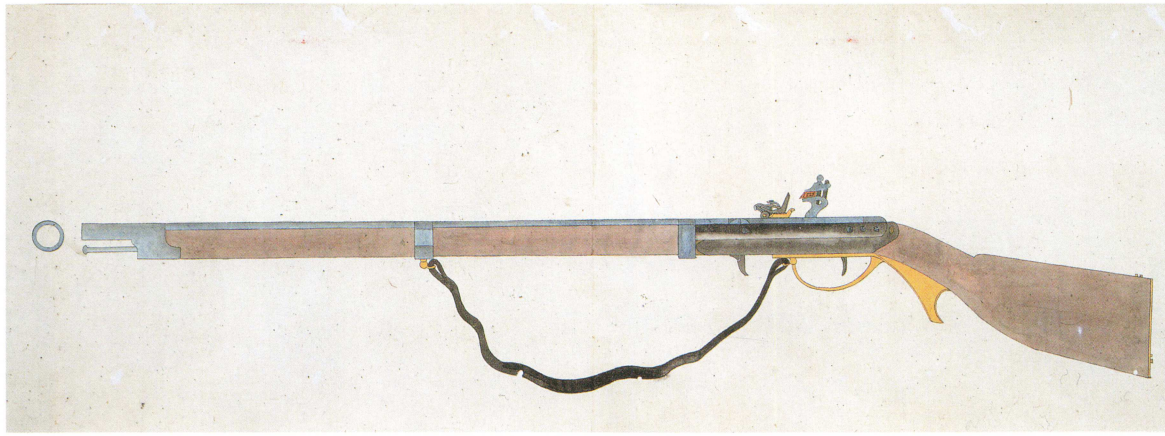

MORRIS
WORKS
1850

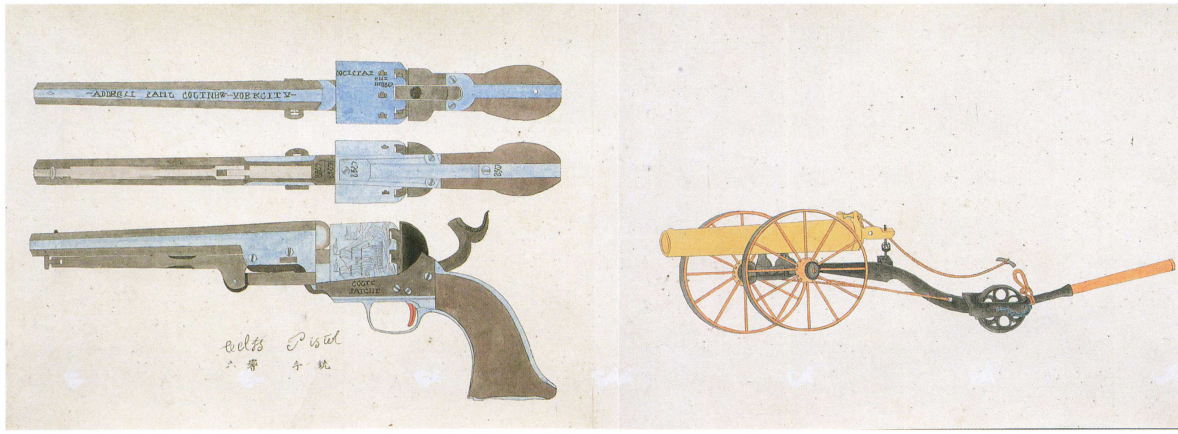

小火輪車格式
前將吧地月像
亦利賀公象國
水師提督版照
月像 年六十八

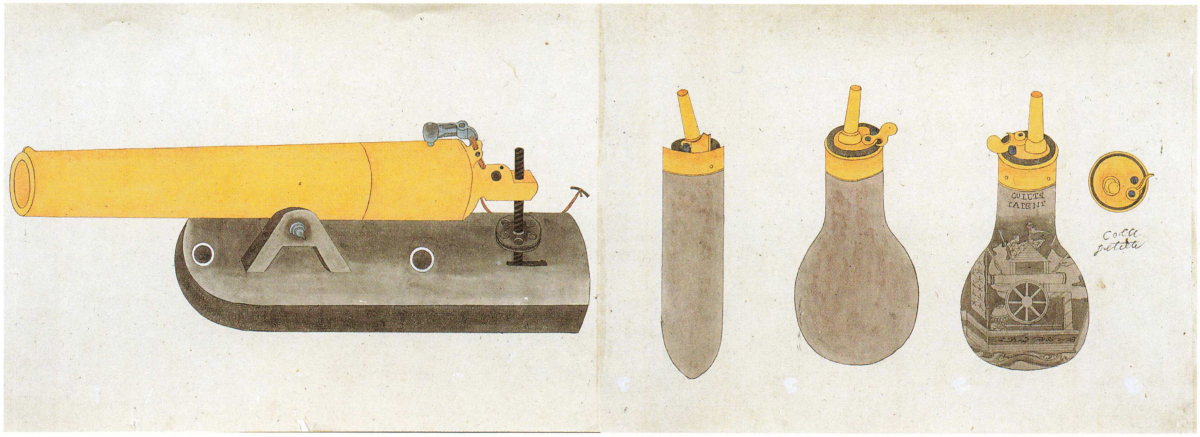

蒸竜車軌道丁法
雷電傳信機器圖
白紙
黑紙
要輪
要輪
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
鉄

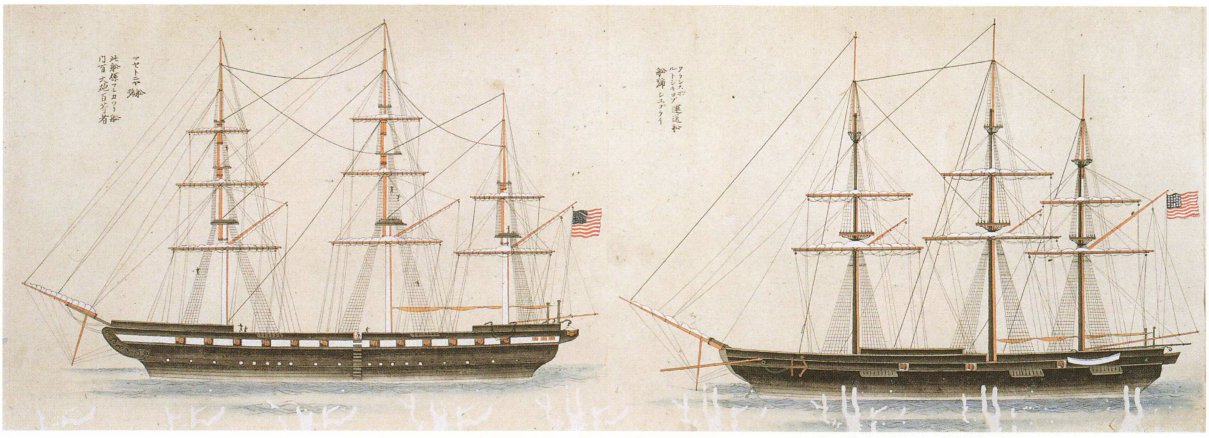


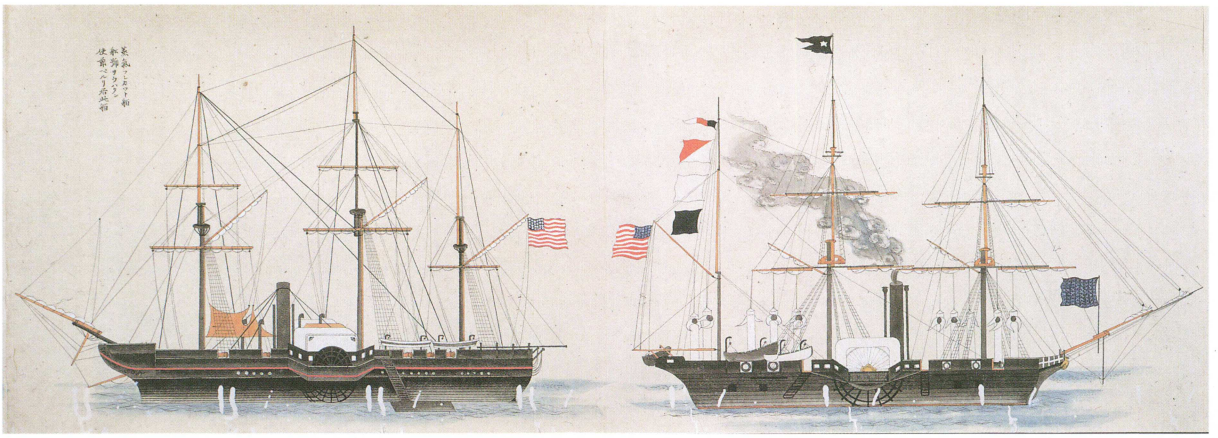


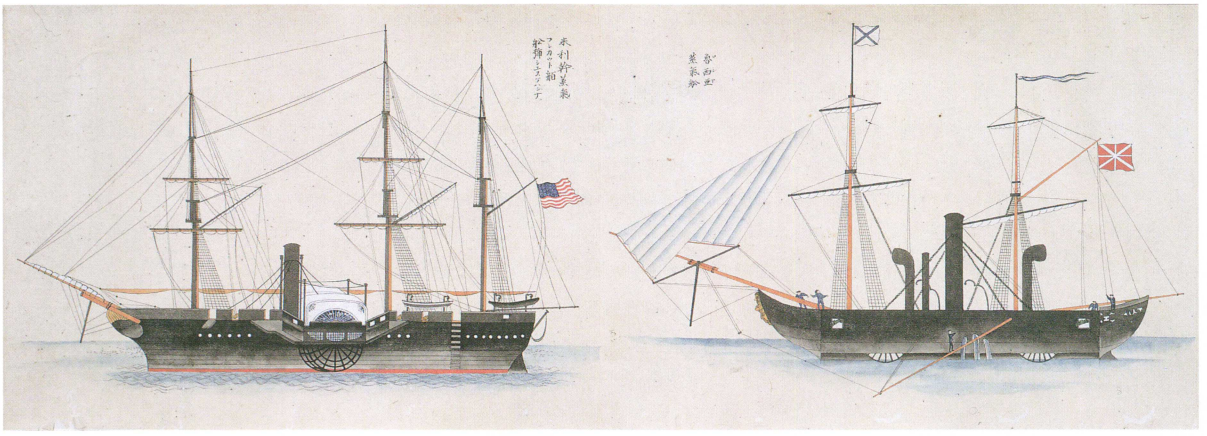


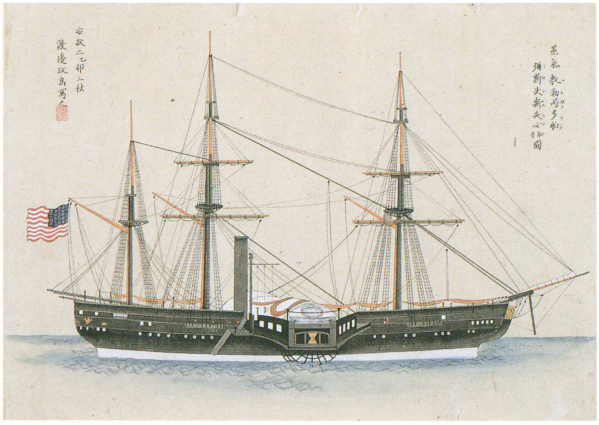

Colts Pistol
六 帶 手 銃

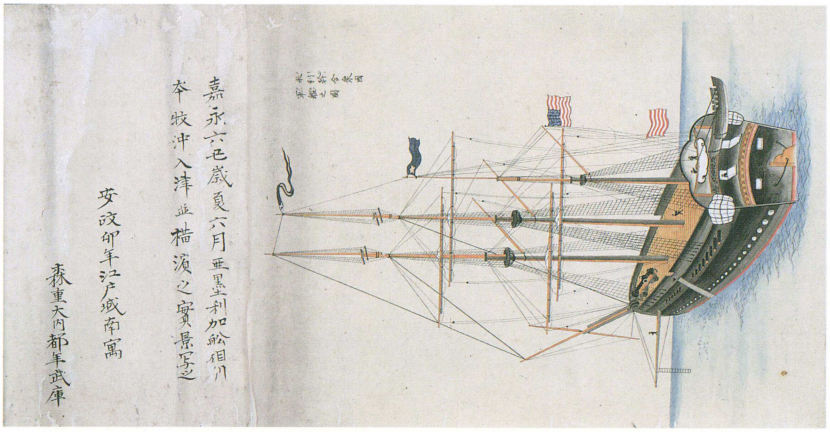

COUCHE
CARBINE
Coeur
petite





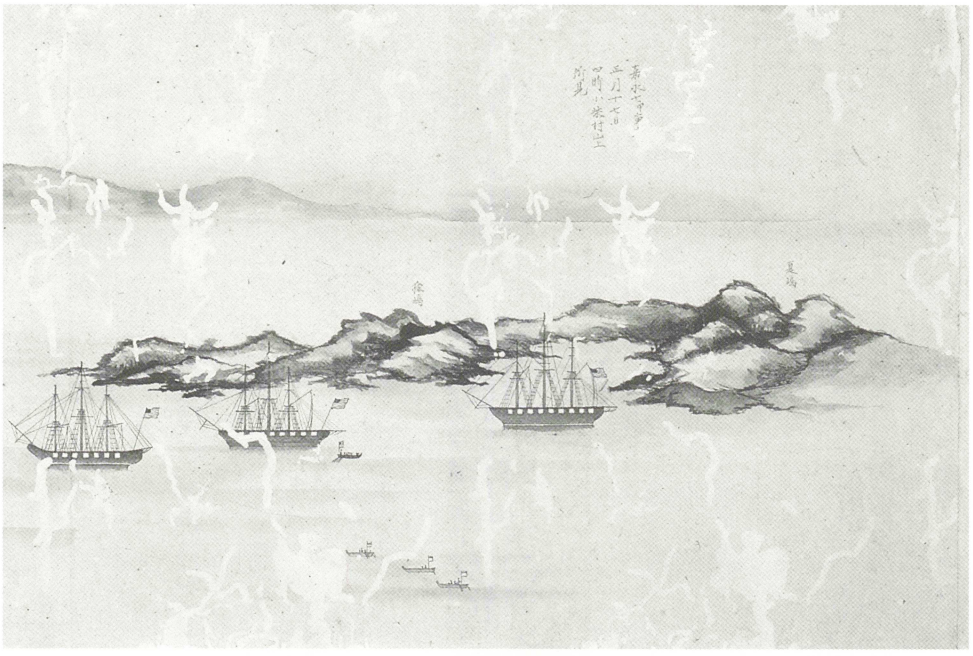





嘉永六己酉歳夏六月亜墨利加船但ハ
本牧沖入津並描須之實景写之
安政卯年江戸城南寓
森重大内都年武庫

（題簽）

亜墨利加船渡来横浜之真図



（1）七四・〇cm

（朱）嘉永七甲寅〔年〕（歳）
正月十七日
四時小柴村山上
所見

（朱）夏嶋

（朱）猿島

C12926－2

（朱）使節ペルリ
此船ニ居ル

(2) 七四・五cm

(朱)
正月十〔六〕日入
一　レキシングトン大砲廿六門
　　人数三十人
　但コルヘット船主役ガラスシ
二月廿一日入
二　シユプライ大砲六門
　　人数四十人
　但タフンスポルトシキ□
　〔主役〕シンクライヽル

正月十六日入二月廿八日キホ　房州
○三　スコスケハンナ大砲六門　鋸山
　　人数三百人
　但蒸気フレカツトハク　横浜応接所
　　主役フカナン
同
四　ポウハタン八門　権現山
　　二百五拾人
　但船主ヨムセキユ子イ
　　使節ペルリ居此船
同
五　マセトニア廿八門　(朱)本牧
　　三百人
　フレカツト船除火輪船
　外七□大船主アブ　明石侯固メ場
　ポット
同　神奈川宿

C12926－3

○六　ミスシスシツピ八門
　　二百四十人
　蒸気フレカツト舶船主
　レー
　同
七　□□□□□□□□□
　　二百人
　コルヘツト舶主役ボーヘ
　正月十四日入
八　サラタムホン六門
　　廿五人
　同　主役ユニウスホイ
　二月六日入三月六日キホ
○九　サラトカ　廿門
　　弐百十人
　〃　主役　ワーケル
　通計百廿八門人数
　千六百四十人
○八去年六月来ル者

潮田
子安
村

（朱）
新ノ宿

C12926－4

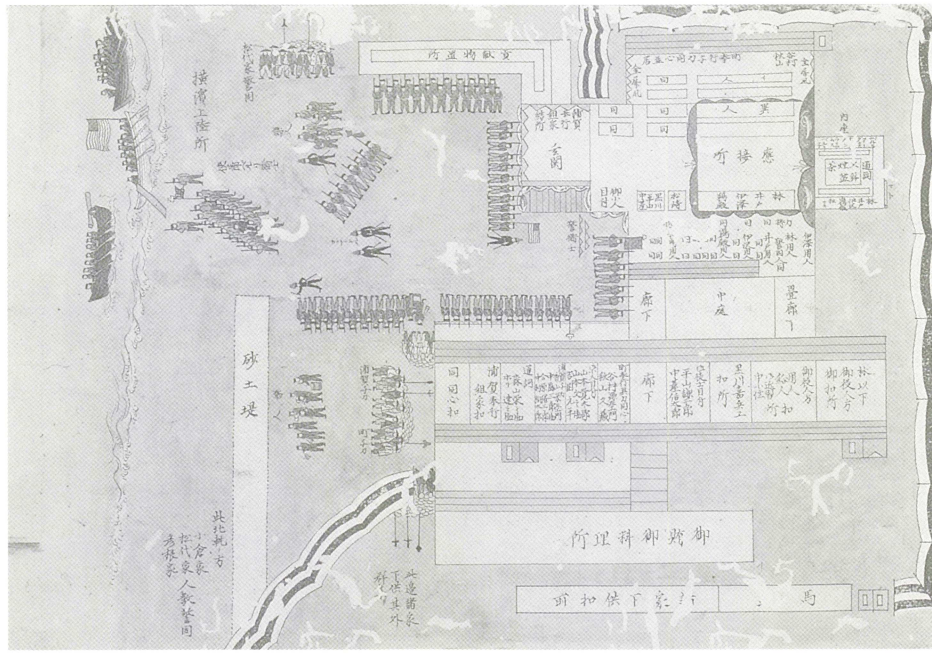
（3）三七・〇cm

（朱）横濱応接所真景

（朱）甲寅三月
藍梁関研写
於金川寓居

（朱）天神丸

（朱）放祝砲（バッテイラ）



C12926－4

金屏風

居並心同力与行奉町　秋山谷村

同	人　イ
同	人　異
同	

所接応

黒川 平山 中台	松崎	鵜殿 伊沢 井戸 林

金屏風

（右上部）

（4）三七・四cm

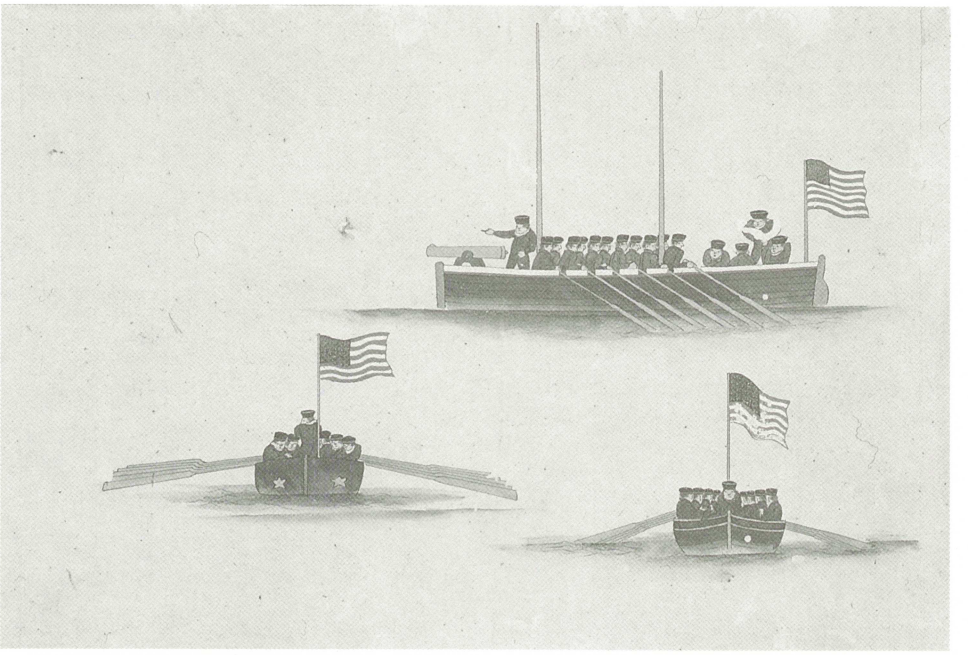
内座

ペルリ　アーダムス　ポートメン　ウイヤマス　ペルリ子

通詞　火鉢　煙盆　茶

林　井戸　伊沢　鵜殿　松サキ

マト



C12926－5

(5) 三七・五cm

C12926－6

（6）三七・〇cm

アボット

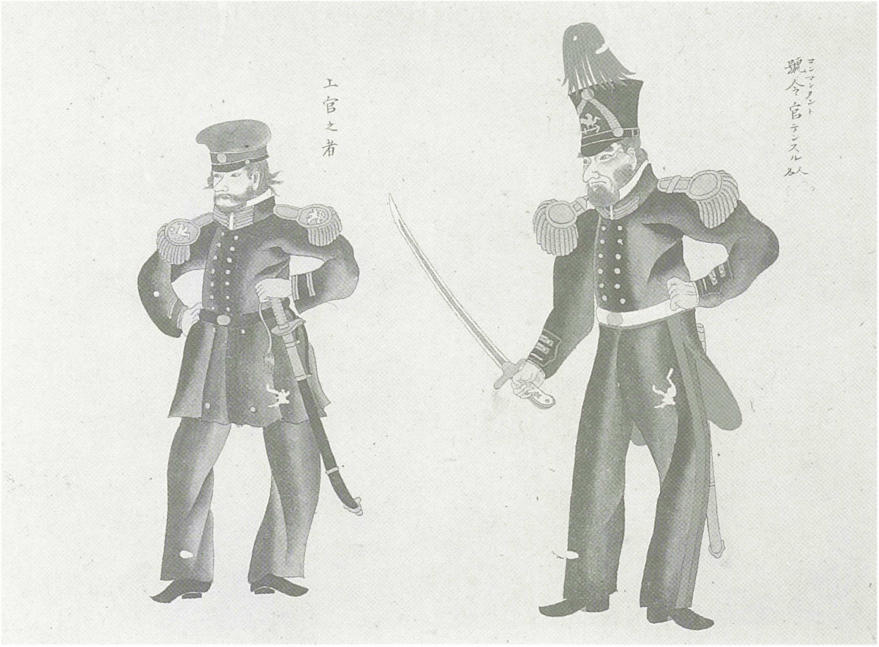
彼里（ペルリ）之嗣子

ホツトメン通蘭語

ウリヤアス通国語

軍艦マセトニヤ［船号］之
船主アヽホツト［人名］肖像
位階ヘルリニ同シ

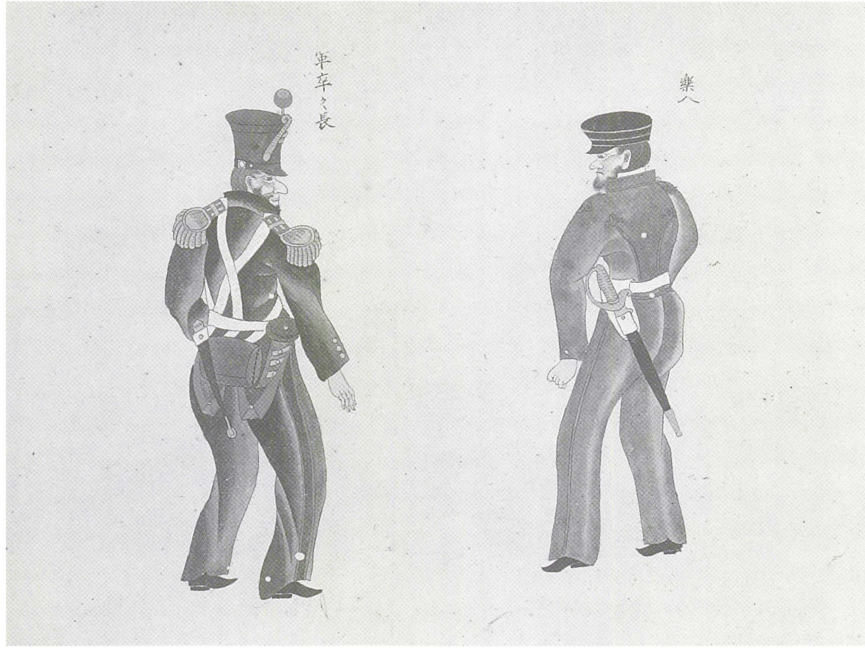
蒸気船スフスキチ［船号］
船主フカナン［人名］



（7）七四・四cm

号令官（コンマンタント）テンスル［人名］

上官之者



C12926－7

軍卒之長

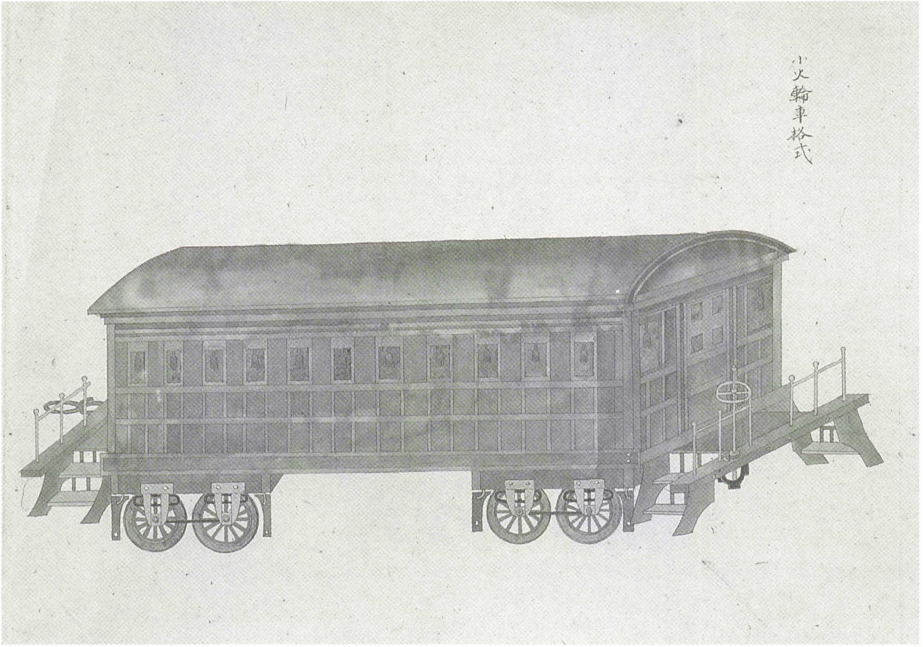
楽人

C12926－8

（8）三七・五cm

米利幹合衆国
水師提督彼里（ペルリ）
肖像　年五十八

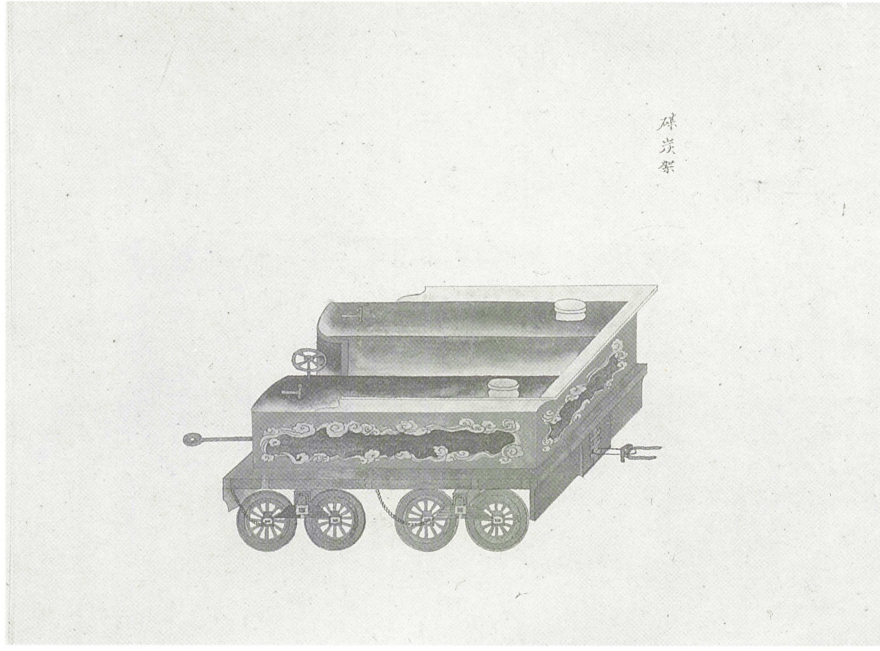
副将唖咆（アダムス）肖像



C12926－9

小火輪車格式

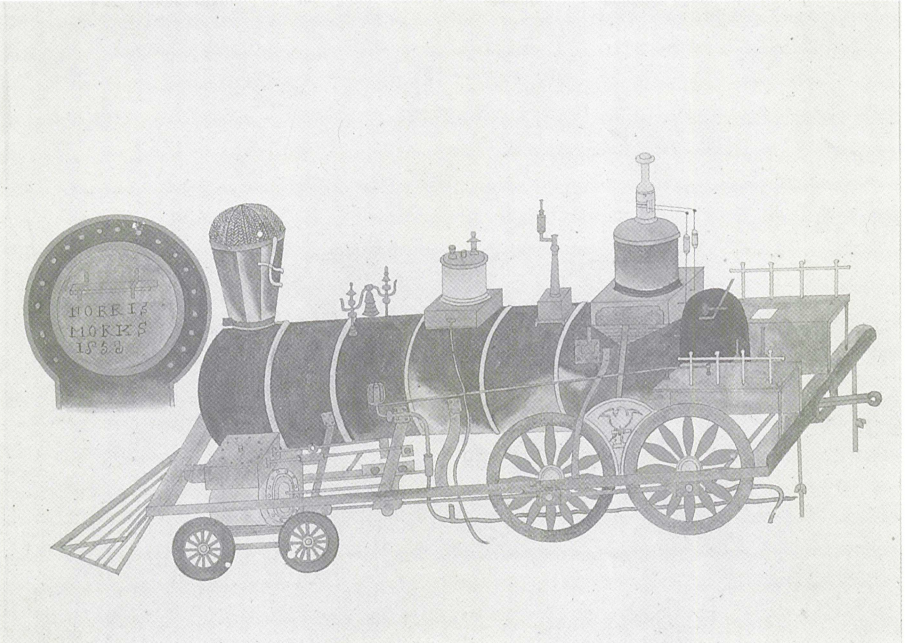
（9）三七・三cm



C12926－10

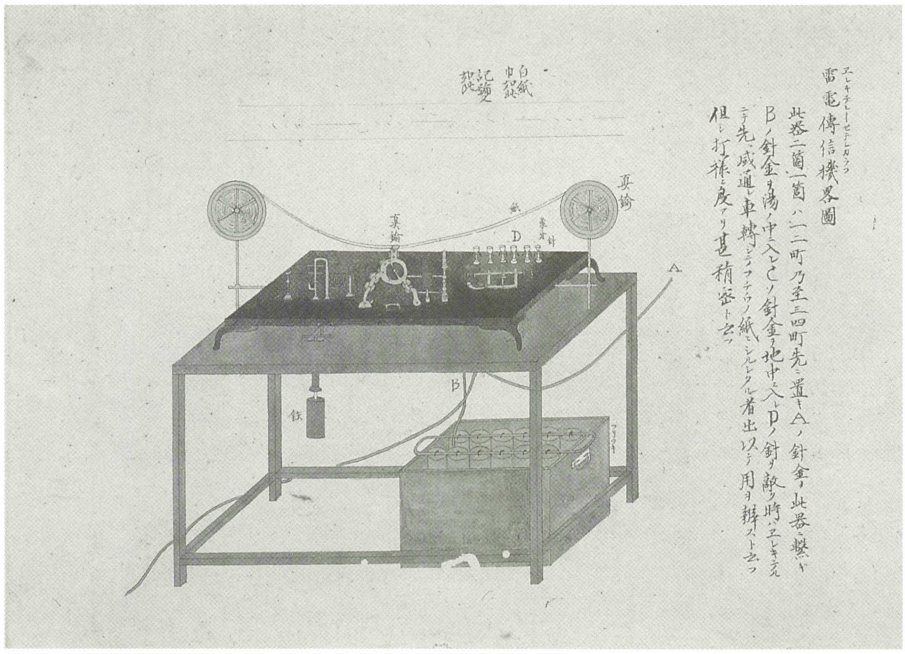
碟炭架

（10）三六・四cm



C12926－11

(11) 三七・三cm



C12926－12

（12）三七・三cm

雷電傳信機略図（エレキテレーセテレカラフ）

此器二箇一箇ハ一二町及至三四町先ニ置キAノ針金ヲ此器ニ繋ギ」Bノ針金ヲ湯ノ中ニ入レCノ針金ヲ地中ニ入レDノ針ヲ敲ク時ハエレキテル」ニテ先ヘ咸通シ車轉シテフチウノ紙ニシルシタル者出以テ用ヲ弁スト云フ」但シ打様ニ度アリ甚精密ト云フ

真鍮　A

白紙　象牙針　フリッコ

巾如此　紙　D

B

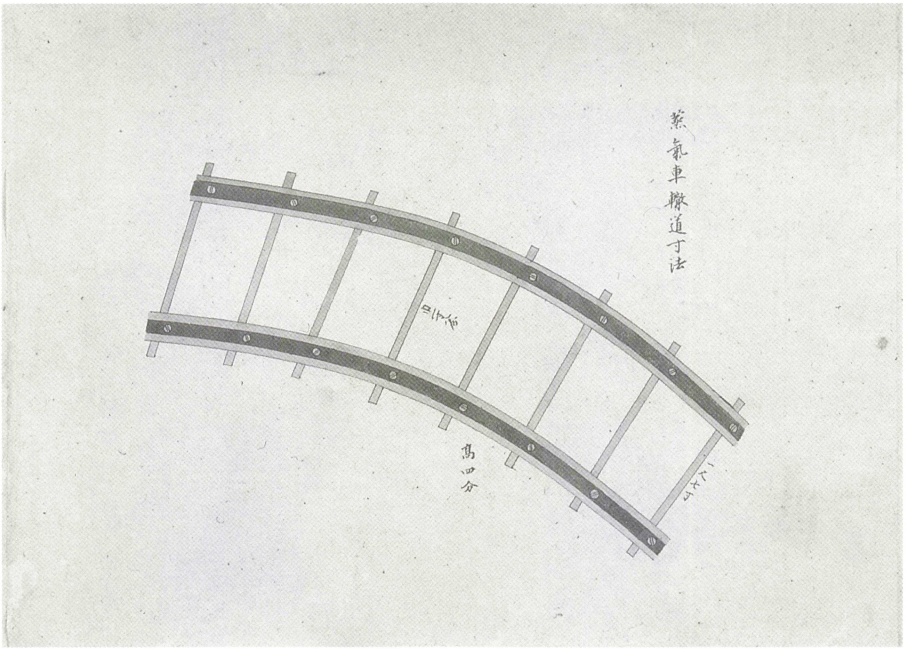
記号

如此

真鍮

鉄

〔C〕



C12926－13

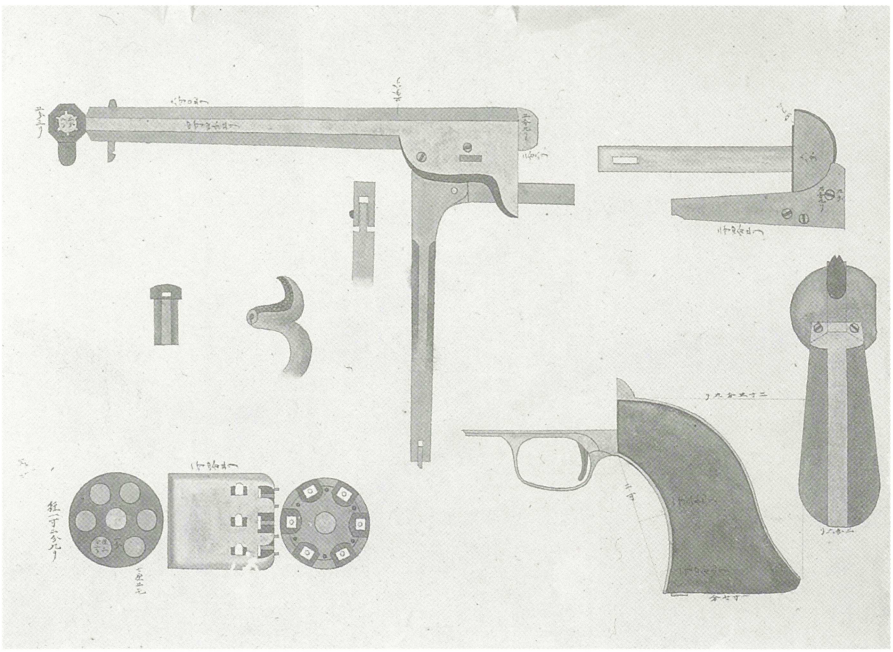
（13）三六・八cm

蒸気車轍道寸法

一尺七寸

巾一寸八分

高四分



（14）七四・六cm

二分六リ　九分九リ　九分　四リ　二分六

二寸四分五リ

二寸四分九リ

五分九リ

五分八リ

六寸〇五リ　四寸四分五リ

三分二リ　五分三リ

一寸三分九リ

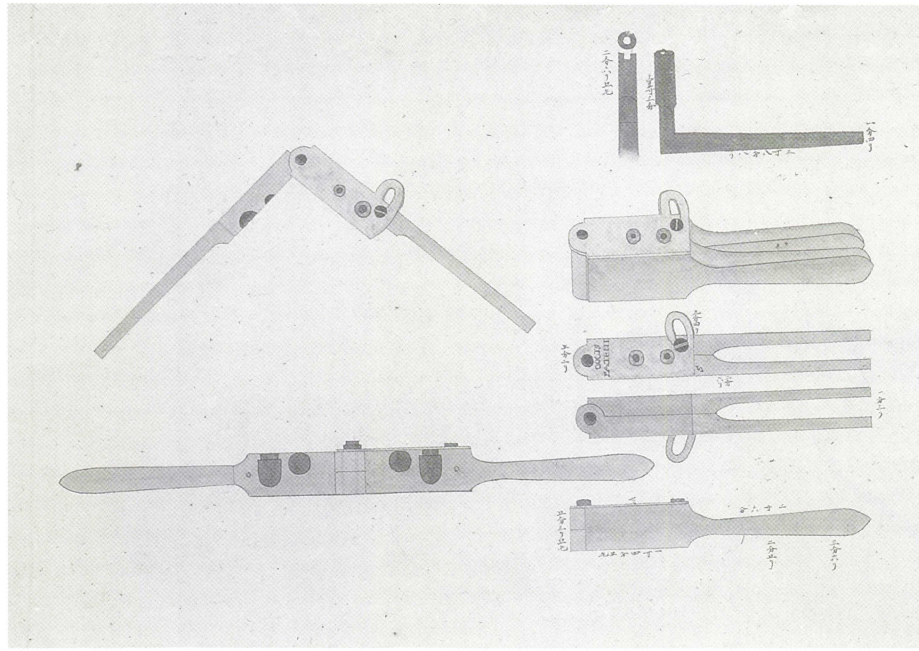
三分六リ

一寸四分九リ

一寸七分

一寸四分五リ

七厘五毛　一分　径三分二リ　径一寸二分九リ



C12926－14

一寸四リ

三寸八分八リ

一寸三分

二分六リ五毛

一分三リ

二寸六分

S

九分四リ

COCIS FAIENL

七リ

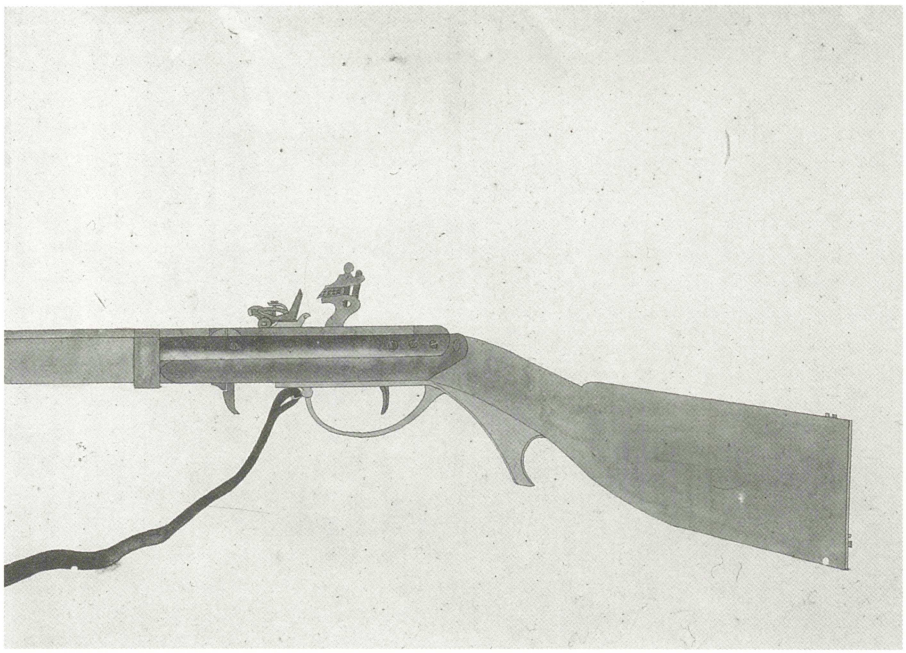
五分二リ

五分三リ五毛

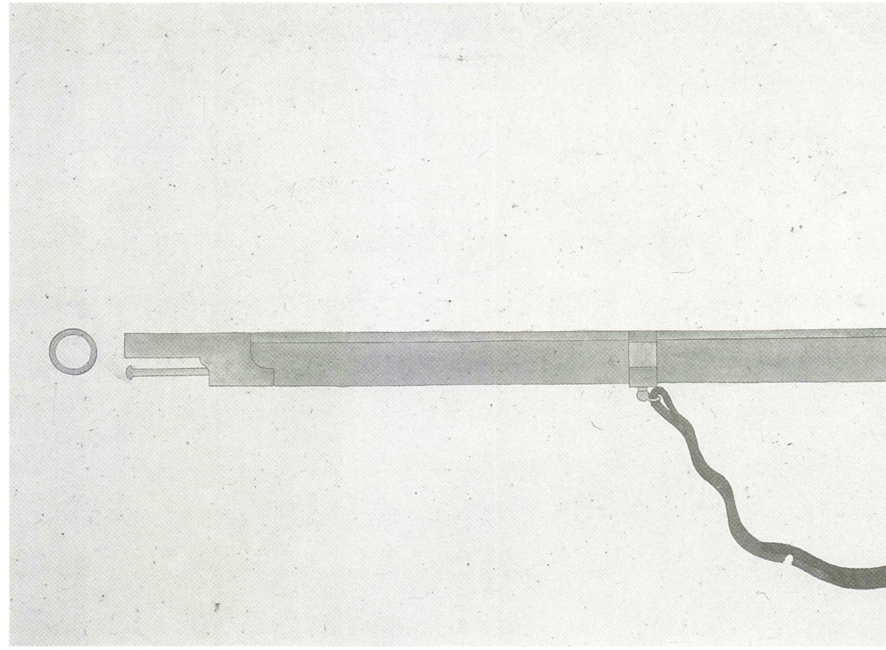
三分六リ

二分五リ

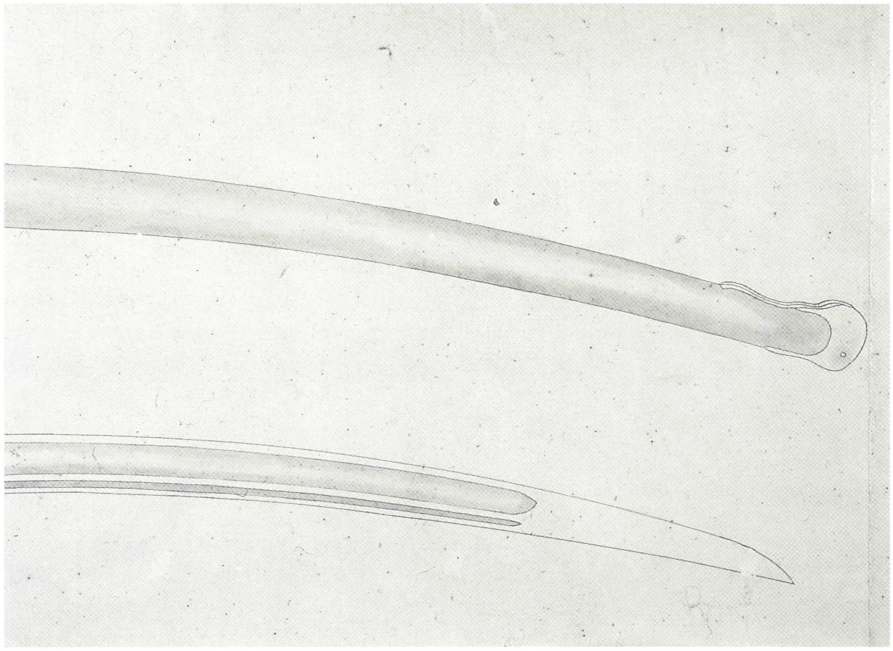
一寸四分五毛



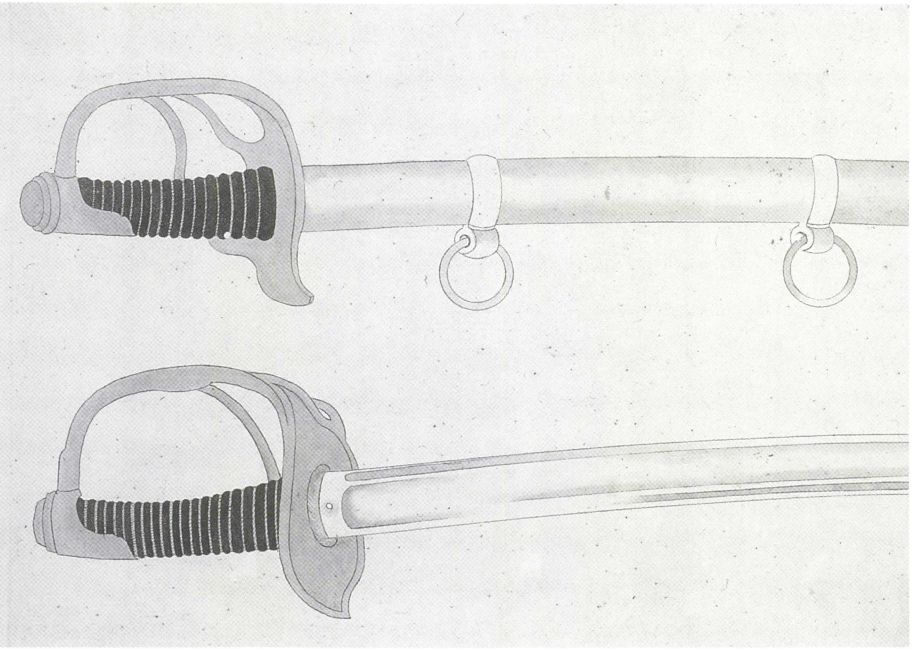
(15) 七四・五cm



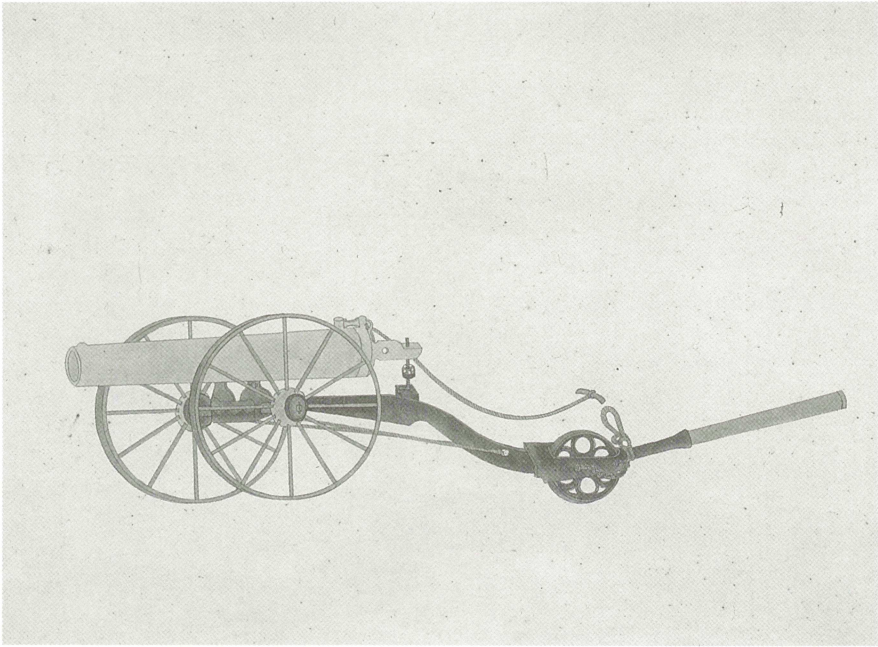
C12926－15



(16) 七四・二cm

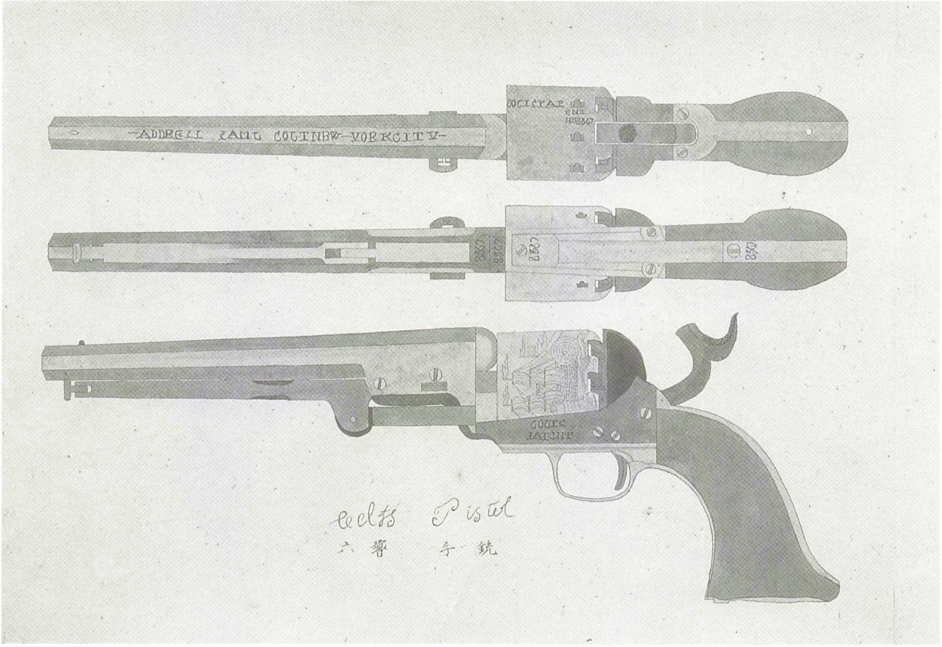


C12926－16



C12926－17

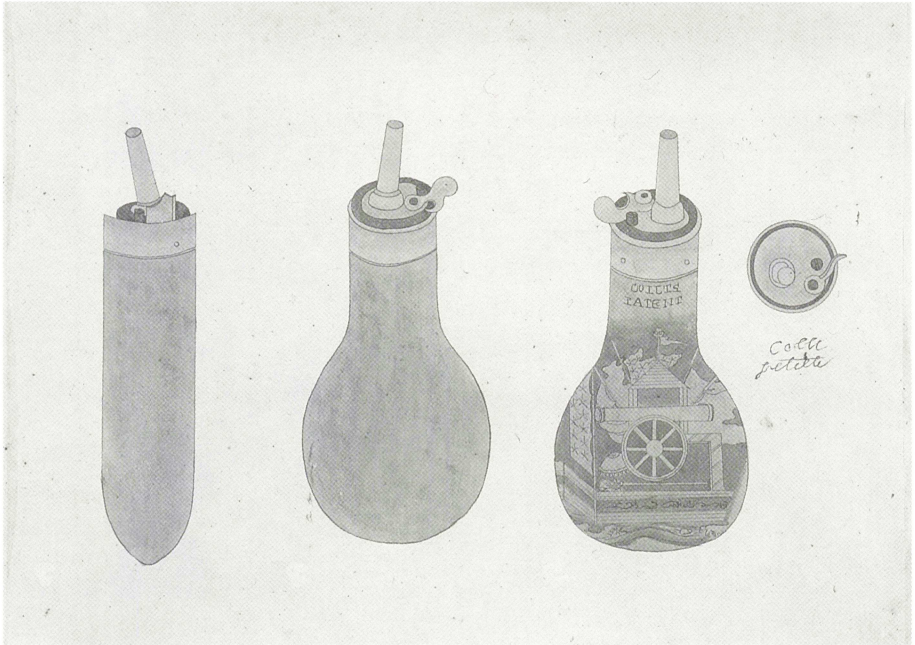
(17) 三七・四cm



C12926－18

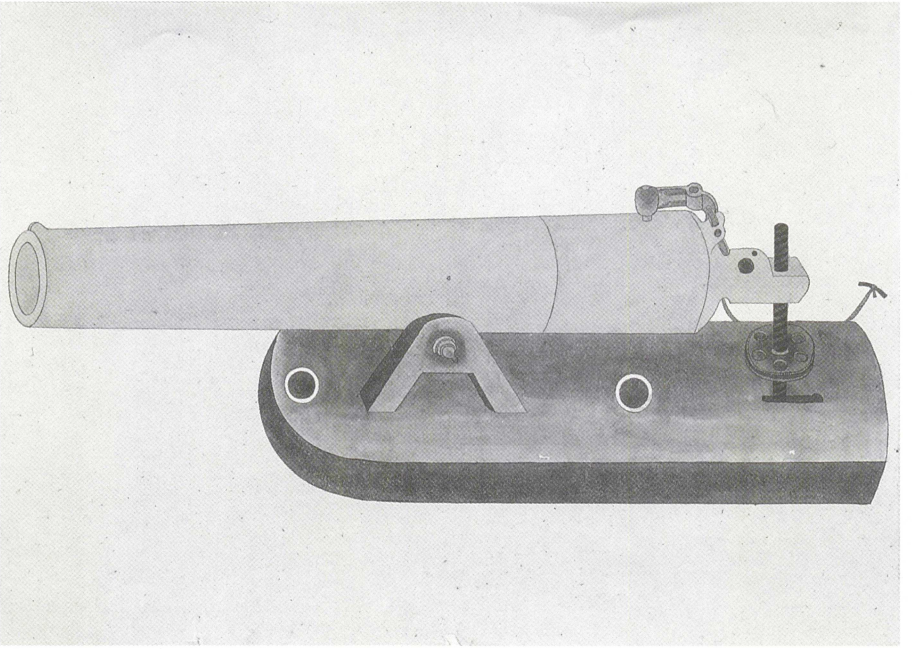
(18) 三七・三cm

Cecltz Pistol
六響 手銃



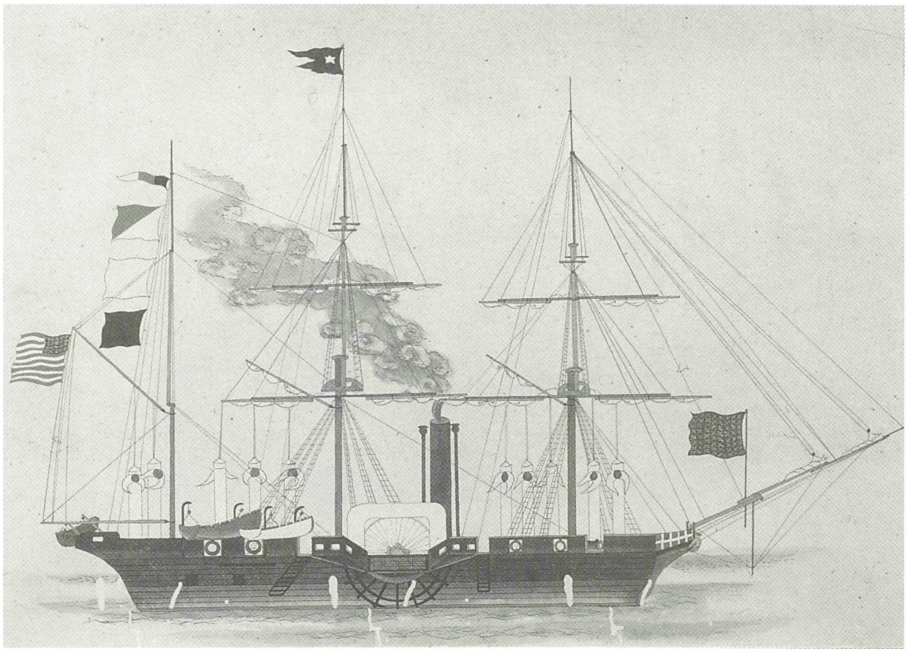
C12926－19

(19) 三七・八cm

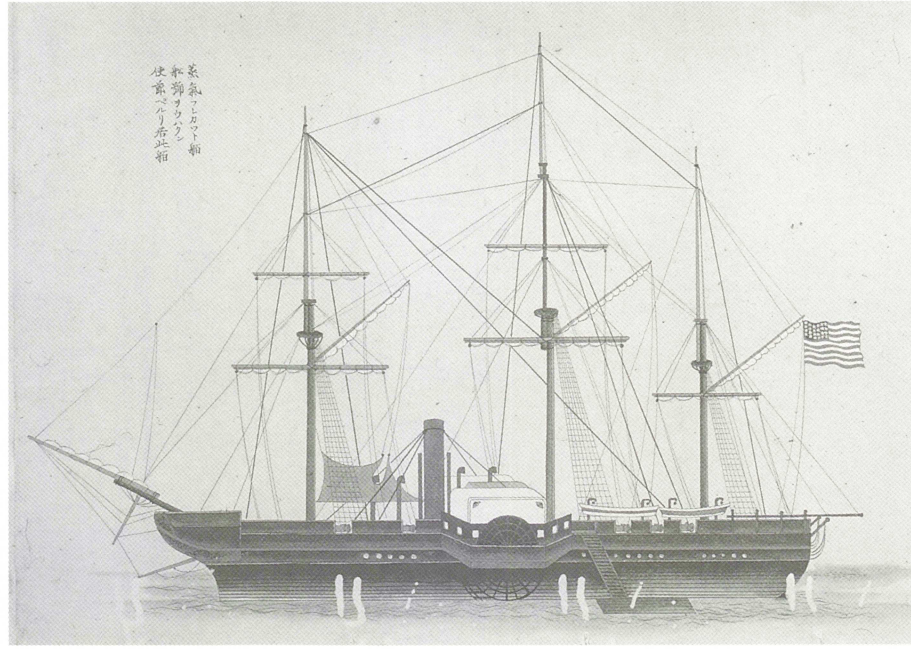


C12926－20

(20) 三七・五 cm

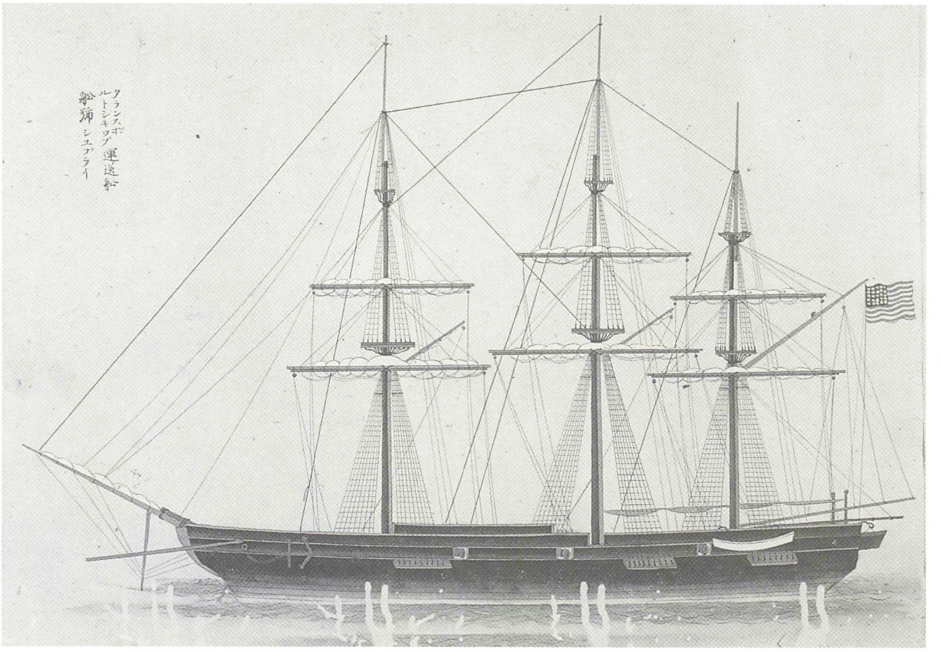


(21) 七四・八cm



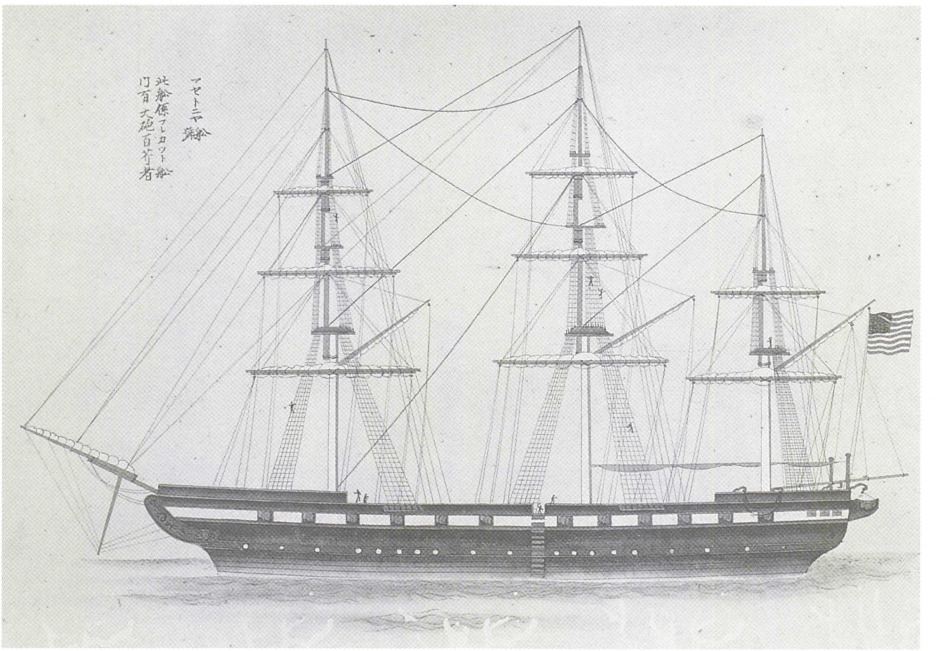
C12926－21

蒸気フレカット船
船号ヨウハタン
使節ペルリ居此船



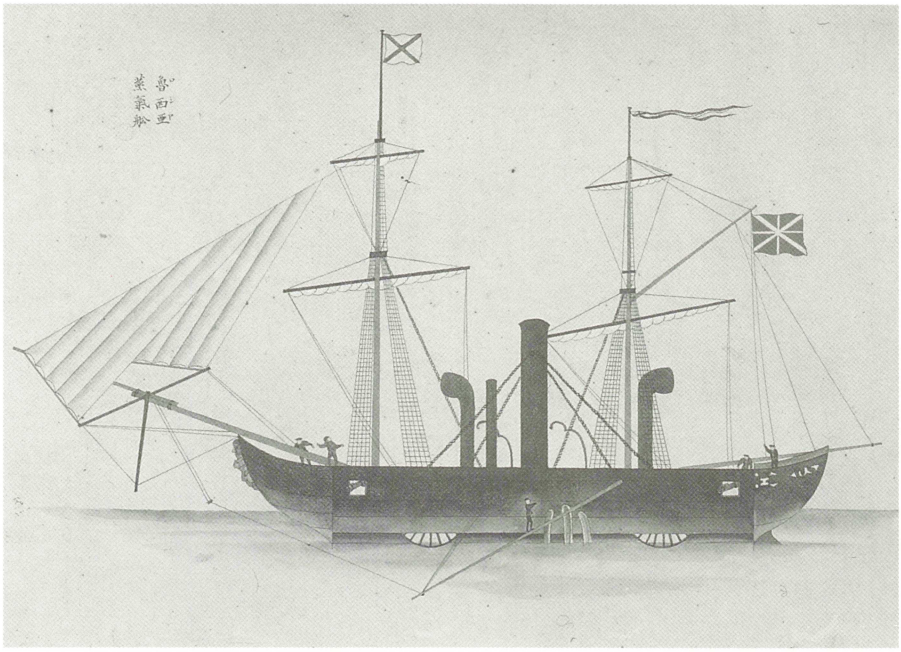
タランスポルトシキツプ　運送船
船号シユプライ

(22) 七五・一cm



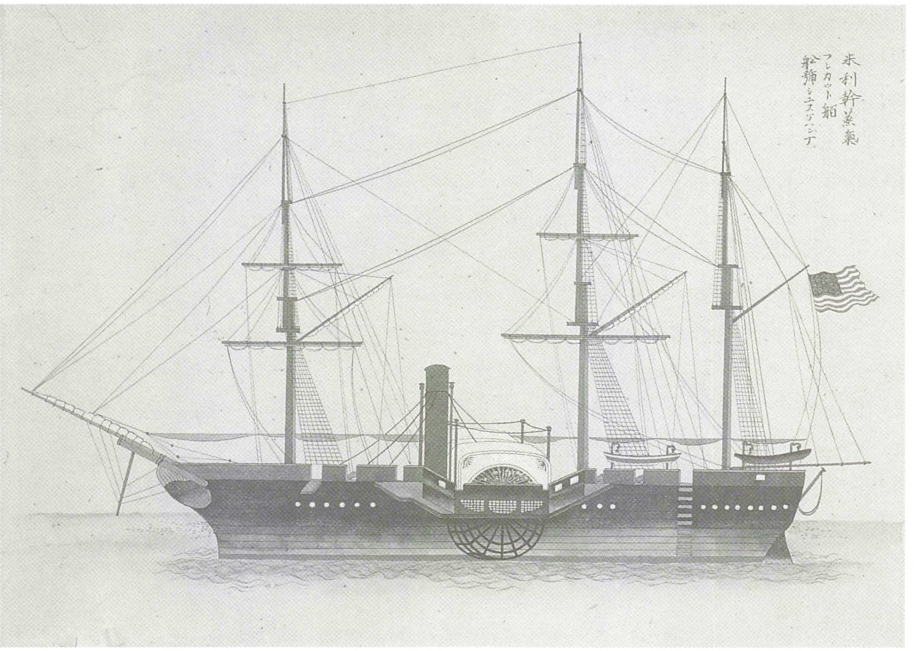
C12926－22

マセトニヤ［船号］
此船係フレカット船
内有大砲百芹者



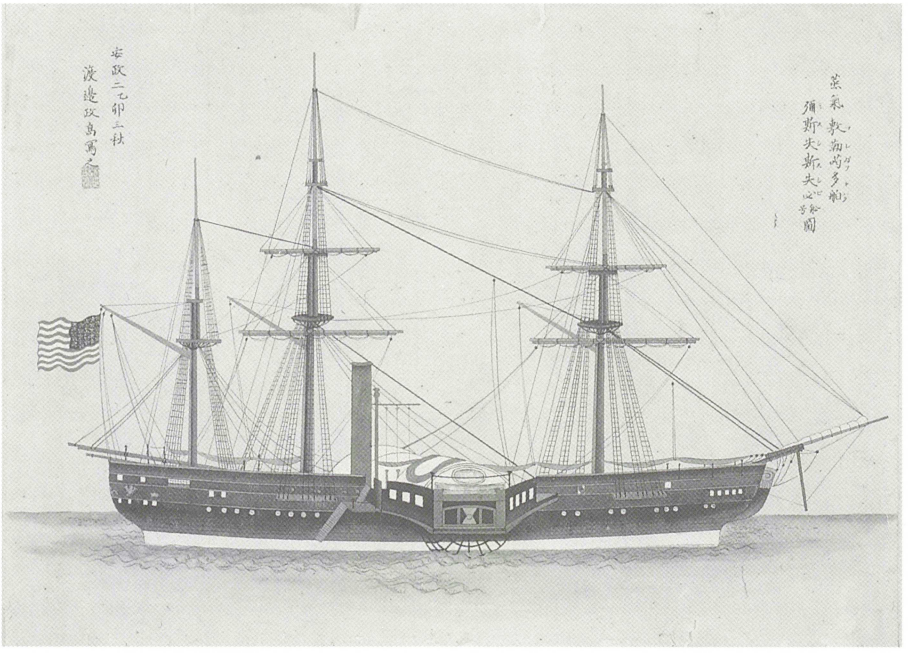
魯西亜（ロシア）
蒸気船

（23）七四・八cm



C12926－23

米利幹蒸気
フレカツト船
船号シユスケハンナ

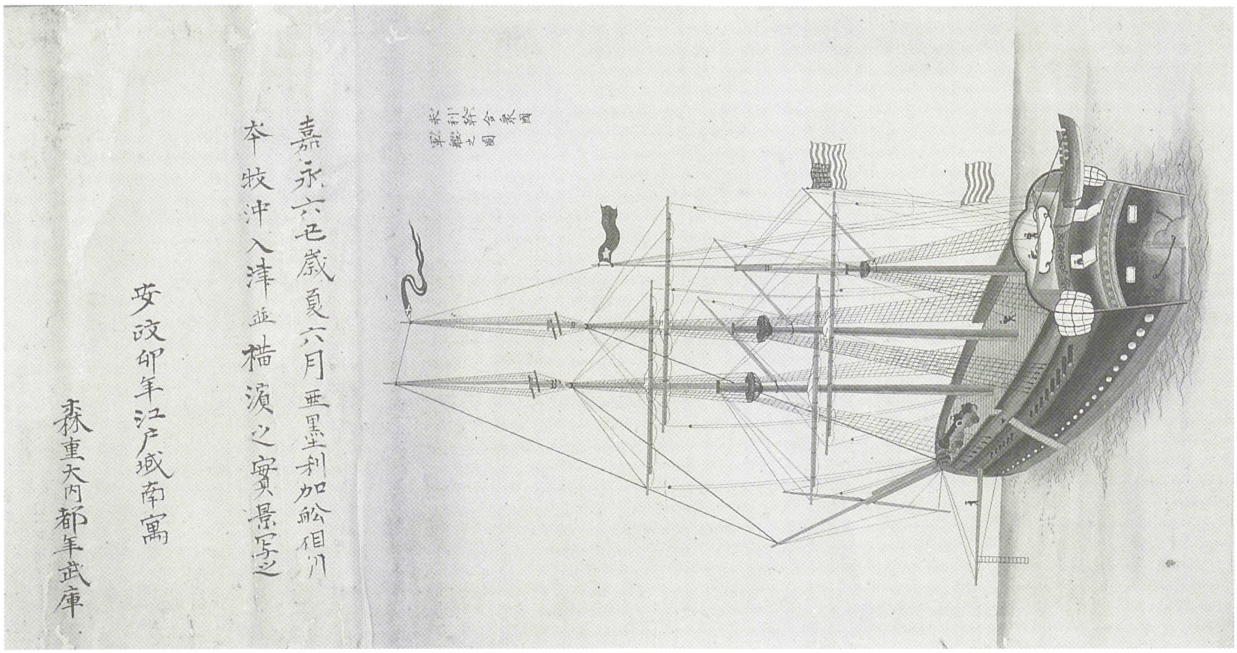


C12926－24

(24) 三七・〇cm

蒸気　敷物咸多船（フレガット・ハク）
弥斯失斯失必（ミスシスシピ）［船号］図

安政二乙卯三秋
渡邊政高写之 印



C12926－25

(25) 五〇・八cm

米利幹合衆国
軍艦之図

嘉永六巳歳夏六月亜墨利加船相州
本牧沖入津並横浜之実景写之

安政卯年江戸城南寓

森重大内都年武庫